

- 問1 三つの仏像が並び、その背後に大きな光背（後光）を持つ法隆寺の釈迦三尊像は、当時の東アジアの情勢を反映した文化様式を持っています。この仏像が制作された時期の中国の状況と、文化的な背景について述べた説明として正しいものはどれですか。（2026年 京都府公立入試 類似）
1. 隋が中国を統一して日本との交流が盛んになった直後の様式であり、唐招提寺の仏像に見られるような写実的な表現が特徴である。
 2. 唐の国際的な文化の影響を直接受けたもので、日本独自の国風文化が芽生え始めた時期の柔らかな表現が特徴である。
 3. 中国が南北朝に分かれていた時期の文化様式の影響を強く受けており、厳しい表情の中にも威厳を感じさせる飛鳥文化の特徴を示している。
 4. 聖徳太子の死後、平城京への遷都に合わせて制作されたもので、東大寺の大仏建立に繋がる天平文化の先駆けとなった。
- 問2 当時の有力な豪族の家系図において、蘇我稲目の子であり、推古天皇や聖徳太子とも深い血縁関係を持つ人物が行った政治的行動として、最も適切なものはどれですか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。
 2. 遣隋使の派遣を停止し、日本独自の国風文化を育てることに専念した。
 3. 検地や刀狩を行い、兵農分離を進めることで社会の安定を目指した。
 4. 武士団を組織して平氏を打倒し、征夷大將軍となって幕府を開いた。
- 問3 大化の改新から始まった中央集権国家への移行は、701年の大宝律令の制定によって一つの完成を見た。この「律令国家」において、政治の基本的な仕組みとして導入された、土地と民衆を国家が直接支配する制度の考え方を何と呼ぶか。（2018年 熊本県公立入試 類似）
1. 地租改正
 2. 公地公民
 3. 寄進地系荘園
 4. 班田収授
- 問4 7世紀の中ごろ、大陸では隋に代わって強力な王朝が成立し、周辺諸国へ進取するなど東アジアの国際情勢が緊迫していました。こうした緊迫した状況を背景に、日本が周辺諸国に対抗できる強力な中央集権体制を築くために踏み切った政治改革を何といいますか。（2020年 岡山県公立入試 類似）
1. 遣隋使の派遣
 2. 大化の改新
 3. 武家諸法度の制定
 4. 国風文化の形成
- 問5 聖徳太子が活躍した7世紀初め頃の政治の様子について、制度の内容とその背景を記述した文として正しいものはどれですか。（2019年 長崎県公立入試 類似）
1. 地方の有力者が「国司」として任命され、中央から派遣された役人と共に土地を治めた。
 2. 冠の色によって12段階の位を示し、個人の功績に応じて地位を与える制度が整えられた。
 3. 律令に基づいて全国を国・郡・里に分け、中央集権的な地方支配体制が完成した。
 4. すべての土地を国有とする「公地公民」の原則が確立され、農民に口分田が与えられた。
- 問6 7世紀初め、聖徳太子は中国の進んだ制度や文化を取り入れることを目的として、小野妹子らを隋（ずい）へ派遣しました。この外交政策の名称として正しいものを、次のうちから選んでください。（2015年 大分県公立入試 類似）
1. 遣隋使
 2. 朝鮮通信使
 3. 遣唐使
 4. 遣明使
- 問7 7世紀半ば、朝鮮半島の北部に高句麗、南東部に新羅、南西部に百済が位置していた時代、中大兄皇子らは、唐と新羅の連合軍によって滅ぼされた「半島の南西部に位置する国」を復興させるために大軍を派遣しました。この出来事に関連する戦いの名称として正しいものはどれですか。（2026年 青森県公立入試 類似）
1. 刀伊の入寇
 2. 元寇
 3. 壇ノ浦の戦い
 4. 白村江の戦い
- 問8 律令制度に基づく中央官制において、神事をつかさどる神祇官とともに、政治の最高機関として位置づけられた組織を何といいますか。その下に八省を従え、実務を統括した名称を答えなさい。（2024年 山梨県公立入試 類似）
1. 摂政
 2. 太政官
 3. 六波羅探題
 4. 評定衆
- 問9 672年に起こった壬申の乱のあとの政治的な変化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2025年 愛知県公立入試 類似）
1. 乱を平定するために武士の力を借りた朝廷は、これを機に武士の政治的な実力を認めるようになった。
 2. 乱はわずか一日で鎮圧されたため、それまでの豪族中心の政治体制に大きな変化は生じなかった。
 3. 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。
 4. 勝利した側が唐の制度をすべて廃止し、日本独自の貴族による合議制を確立させた。
- 問10 663年に朝鮮半島で行われた白村江の戦いにおいて、百済の復興を支援した倭（日本）の軍勢が唐・新羅の連合軍に大敗したのち、大和政権が日本本土への侵攻に備えて講じた防衛策として最も適切なものはどれですか。（2025年 奈良県公立入試 類似）
1. 東北地方に多賀城を築き、蝦夷の反乱に備えて鎮守府を置いた。
 2. 九州北部の沿岸部に水城や朝鮮式山城を築き、防人を配置した。
 3. 元寇の襲来に備えて、博多湾の沿岸に石造りの防塁を築いた。
 4. 平安京を守るために、検非違使を設置して治安維持にあたらせた。
- 問11 推古天皇の時代、聖徳太子（厩戸王）らは、従来の氏姓制度のように「家柄」によって地位が決まる世襲の仕組みを改めようとして、そのために導入された「冠位十二階」という制度の主な目的を説明したものとして、最も適切な記述を選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）
1. 仏教の教えを広めるために、僧侶に十二段階の位を授けること。
 2. 天皇と役人が守るべき政治的な道徳を、十七条の項目にまとめて示すこと。
 3. 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人として登用すること。
 4. 地方の豪族に対して、代々その土地を支配する権利を認めること。
- 問12 飛鳥時代、聖徳太子の命を受けて中国（隋）へ渡り、当時の進んだ制度や文化を吸収しようとした人物は誰か。（2024年 大分県公立入試 類似）
1. 最澄
 2. 鑑真
 3. 小野妹子
 4. 阿倍仲麻呂
- 問13 聖徳太子が定めた十七条の憲法において、「天皇の命令を承った際には、必ず慎んでこれに従わなければならない」という趣旨の一節が記された主な理由として、最も適切なものはどれですか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）
1. 武士同士の領地争いを裁くための公平な基準を設けるため
 2. 役人の心得を説くことで、天皇を中心とする政治体制を整えるため
 3. 都市の商工業者に特権を与え、外国との貿易を盛んにするため
 4. 大名の私的な婚姻を禁止し、幕府の統制を強めるため
- 問14 飛鳥文化が成立した背景として、当時の政治の動向と文化的な影響について述べた文章のうち、正しいものはどれか選びなさい。（2023年 埼玉県公立入試 類似）
1. 聖徳太子が仏教を厚く保護したことで、法隆寺などの寺院を拠点に、中国の南北朝時代の影響を受けた文化が花開いた。
 2. 鑑真が来日して正しい戒律を伝え、唐招提寺を中心に、写実的で人間味あふれる仏像が数多く作られた。
 3. 聖武天皇が国ごとに国分寺や国分尼寺を建てたことで、仏教が地方まで広まり、唐の様式を取り入れた文化が定着した。
 4. 藤原氏による摂関政治が安定したことで、浄土信仰が広まり、阿弥陀堂などの日本独自の建築様式が確立された。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国が南北朝に分かれていた時期の文化様式の影響を強く受けており、厳しい表情の中にも威厳を感じさせる飛鳥文化の特徴を示している。	法隆寺の釈迦三尊像に代表される飛鳥文化は、朝鮮半島の百済や高句麗などを經由して、中国の南北朝時代の文化様式（特に北魏の様式）が日本に伝わったものです。当時の中国は南北の王朝が対立する不安定な時期もありましたが、そうした大陸の動乱の中で磨かれた仏教美術の技法が、聖徳太子の統治する日本へと伝来しました。
問2	答え 1 仏教の採用に反対する勢力を退け、大陸の新しい文化や制度を取り入れて国家の近代化を図った。	蘇我馬子は蘇我稲目の息子であり、自らの娘を天皇に嫁がせるなどして天皇家の外戚として強い権力を握りました。彼は仏教を積極的に受け入れることで、大陸の高度な技術を持つ渡来人と結びつき、古い慣習に縛られない新しい国家体制を目指しました。この過程で仏教反対派の物部氏と激しく対立しました。
問3	答え 2 公地公民	大化の改新の詔（みことのり）で示された最も重要な方針が、それまで豪族が私有していた土地や民を国家のものとする「公地公民」である。この方針は壬申の乱を経て強化され、大宝律令に基づく戸籍の作成や班田収授法の実施によって具体化された。これにより、国家が民衆から直接税（租・庸・調）を徴収する仕組みが確立した。
問4	答え 2 大化の改新	大陸で隋が滅びて唐が成立すると、唐は朝鮮半島の高句麗など周辺諸国へ攻撃を仕掛けるなど勢力を拡大しました。この国際情勢の変化に危機感を抱いた中大兄皇子や中臣鎌足らは、蘇我氏を倒して天皇を中心とした強力な国家体制を整えようとししました。これが645年から始まる一連の政治改革である大化の改新です。
問5	答え 2 冠の色によって12段階の位を示し、個人の功績に応じて地位を与える制度が整えられた。	冠位十二階は、位によって冠の色を分けることで、宮中における序列を視覚的に明確にした制度です。これは個人の能力を評価する仕組みであり、世襲によって地位が決まっていた当時の豪族主導の政治を改めようとしたものです。他の選択肢にある国司の設置や公地公民などは、大化の改新以降の「律令国家」へと向かう過程で整備された仕組みです。
問6	答え 1 遣隋使	聖徳太子は、推古天皇の摂政として政治を行う中で、小野妹子らを中国の隋へ派遣しました。これが遣隋使です。当時、中国は巨大な帝国として高度な文明を誇っており、日本はそこから法律や政治制度、仏教などの文化を直接学ぶことで、国力を高めようとしていました。
問7	答え 4 白村江の戦い	中大兄皇子（のちの天智天皇）は、友好関係にあった百済を再興させるために朝鮮半島へ軍を送りました。しかし、663年に白村江で唐・新羅の連合軍に大敗を喫しました。この敗北により、日本は唐・新羅による日本への侵攻を警戒し、九州に水城を築いたり、対馬や九州に防人を配置したりするなど、防衛体制の強化を急ぐことになりました。
問8	答え 2 太政官	律令国家の統治機構は「二官八省」と呼ばれます。その中核である太政官は、中務省や式部省といった八つの実務機関（八省）を指揮し、国の政務全般を決定する最高行政機関としての役割を果たしました。
問9	答え 3 勝利した天武天皇が、豪族の力を抑えて天皇の権威を高め、律令国家の建設を強力に推進した。	壬申の乱で勝利して即位した天武天皇は、それまでの豪族たちが政治の実権を握る体制を改め、天皇に権力を集中させました。これにより、天皇を中心とした中央集権的な法制度に基づく「律令国家」の形成が加速することとなりました。武士が政治的な力を強めるのは平安時代末期以降のことです。
問10	答え 2 九州北部の沿岸部に水城や朝鮮式山城を築き、防人を配置した。	白村江の戦いでの敗北後、大和政権は唐や新羅による日本本土への報復的な侵攻を強く恐れました。そのため、対馬や九州北部に「防人（さきもり）」と呼ばれる兵士を配置し、大宰府の北側に「水城（みづき）」という巨大な土塁を、さらに周辺の山々に朝鮮式山城を築くことで、防衛体制を急ピッチで整えました。
問11	答え 3 家柄にとらわれず、才能や功績のある人物を役人として登用すること。	冠位十二階は、それまでの「氏（家柄）」に基づく世襲制の官職登用を改め、個人の能力や手柄を評価して役人を採用するために作られました。これにより、優秀な人材を政府の中枢に集め、天皇を中心とする中央集権的な国家体制を整える狙いがありました。選択肢にある「十七条の項目」は、翌年に制定された「十七条の憲法」の説明です。
問12	答え 3 小野妹子	聖徳太子は、中国の進んだ制度や仏教文化を直接学ぶことで、天皇を中心とした国づくりを進めることを目指しました。そのために派遣されたのが遣隋使であり、小野妹子はその代表的な人物です。これにより、日本は中国との対等な外交関係を模索しつつ、律令国家の礎となる知識を得ることができました。
問13	答え 2 役人の心得を説くことで、天皇を中心とする政治体制を整えるため	当時は有力な豪族が力を持ち、政治的な対立が続いていました。聖徳太子は、冠位十二階によって才能ある人材を登用するとともに、十七条の憲法によって役人が天皇に従うべき道徳的な規範を明文化し、国家としてのまとまりを強化しようとしていました。
問14	答え 1 聖徳太子が仏教を厚く保護したことで、法隆寺などの寺院を拠点に、中国の南北朝時代の影響を受けた文化が花開いた。	飛鳥文化は、推古天皇の摂政であった聖徳太子や蘇我氏が仏教を政治に取り入れ、厚く保護したことで発展しました。当時の中国は南北に分かれていた「南北朝時代」にあたり、その建築様式や仏像制作の技法が百済（くだら）などを經由して日本に伝わりました。現存する世界最古の木造建築である法隆寺は、その代表例です。